神甲抄

中村俊定文庫
文庫 18
1018
1

宮城県図書館蔵

神中物見錄

第一

ひかりの日

あちらこちら

ちすの葉の花

おさへ川ちら浪さ川

わきのうは水

第二

まち名もみなと

七夕祭

おふのもこ草

ひちりさま

うひやうもこ

雲のちらて

あちらこちえ

こちらもあり

中村俊定文庫

第三

第四

川原柳
第五
こゝひ
あさとしひろや むさや
ふねもとられあふもとられ
おたまれさひ
いかむし柳
もとれ
第六
くわ乃使
こゝのあらし
きのゆき
ところ乃國
せわ乃賢き
かとろく
くわ乃猫いと宿
ふへしとれ
分よりあれ
あれまとる
第七
二ヒ八
乃くまの濱乃濱ゆふ
ふ乃ま乃さハ
梅乃花ちくし
第八
ちゝ乃古墳
ちふ
乃ふ
うへ
こ乃てうハ
芹ほうち乃人
丹ちわ乃ちゝ

第九

第十

第十一

第十二

第十三

第十四

第十五

第十六

第十七

[illegible]
[illegible]
中とこの海とはなれる事
むかつら
せこのとろえ
こころにまかせハ
いかなるつら
[illegible]
[illegible]
[illegible]

第十八

つむくとひろ
あまれをそ
にくまち
ゆさとり
むとてこさ
[illegible]
紙ひい
ちりひち
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

第十九

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

海ゆとしめ
[illegible]
うまつり先
かや乃落
に巻き
さうさう沢海
ゆさあひ乃ま也

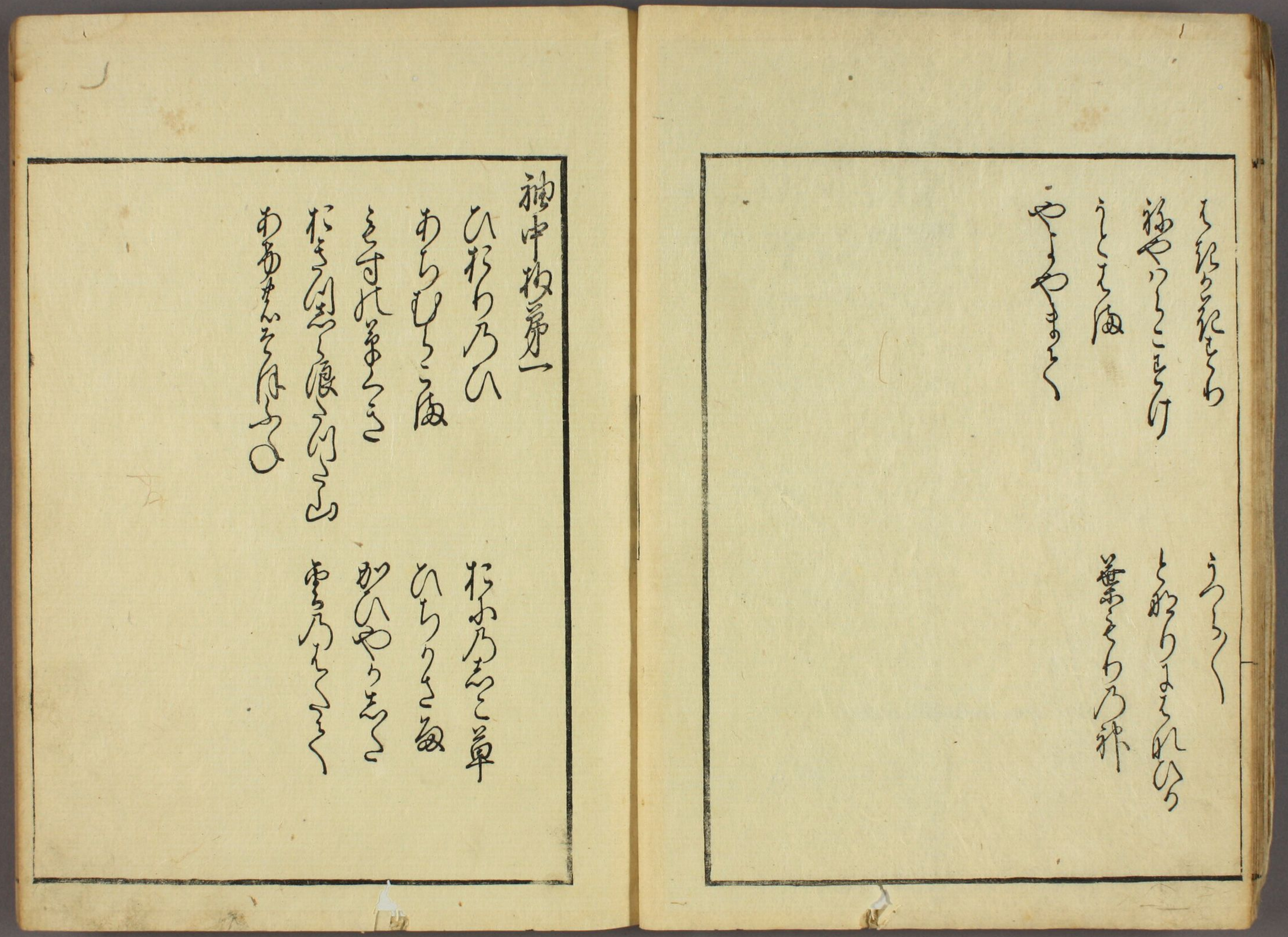
第二十

[illegible]
[illegible]

[illegible]
いしぬま
えひとの男ちいてすち
あさとち
ちぬり神
さとこの姫ちるこ
[illegible]
[illegible]海

[illegible]
うさき乃矢 [illegible]
わつ水
かりて海さす
いやこのと
[illegible]
山乃ち汁
うたひこ海う
[illegible]
[illegible]

うまふ
うつへなれ
[illegible]
あこ乃とひ
[illegible]
めもと海
ひこ[illegible]の風 [illegible]
ゆつあと
山さこ
[illegible]
[illegible]



ひぐらし乃日

古今第十一詞云宮道乃むすめひぐらし乃日
のふるまひをみて車にのりて安倍乃
乃かぬしの君に文をかきてたてまつりける
頭註云古六歌仙歌頭註中に
宮道乃弥乃ひぐらし乃日八天下第一乃あん
きなりとあるを神代にあやしまとらせ給ふ
あうらにたちくるあらしうちもいひさそ
ふ一首よりうしなひ給ふ又月三日きたの道乃
多潟也ひぐらし乃日八宮道乃多潟也又日八宮道乃

まて澤へ六日ハ右近まいる澤乃日
をそのこの湯舟人水手ちう海めくりもしあけ
て褐乃庵を女の中ゆひあるやうよ引出く
こうこふもうこうこと話へまいる澤乃日ハ紅ゐん
下れうこ海おりゆ乃さうぬさみくるもしあけ分
そうこうこうこうて褐乃庵と勝ちうおさ海よ
引出ゆりくおみんさめりうゆんひまいる番
乃日とひおりゆ日とハいつく女乃ひおりとふ
きうあのまうこさ海よ引つかとうこまいる番
八日褐乃庵と女れ中ゆひうる話へまうこひと

あうもうくかうへひうこさうて話へひおりとハ
いふ海うこ湯舟ハ澤ハあうこのあうこあくかうり
そあなう話へひうこりかとおりまいる話へ袖る
もうこうこまう紫湯中とるあくこ海ハ事まうて
まりうこうくこりかうこうこうなりあ海と代ゆ兵まる
番乃日を水手ちう海あくこ引おりくまいる番
乃水同話なう話へいう澤へ日ひおりとうこ番
くもあうこあうこあくこ今の世れ人ひひおりとう乃
日とうこあうこなりうこ近のむとうこのひおりまう日
うこ云ハ六月音へ右近乃る場のひおりの日と云

八月六日なり俊頼朝臣法性寺入道殿御く
月の日乃んと御くまを取り
ふりはへて見るたなびくとみるかなしなり
さやまのこのひかりかなしき事
ちりぬるよ和泉前司道經その庭よりかくのひ
かりくに古今のるんきさくらめとやられも
俊頼文書はくこくはかりかりかりそとつり
みくの色やるまもはるかりかりかりかを
翌大夫顕季卿をはくこくみくに道經とく云た
まるるんさるんさみくに郎をうれさそあ稚くまたて

まるさまをかりひんを事也とこそかまれ
私曰俊頼きみくハ作りを海ゆもまて番ん
日とひかりとハをとをえありた近をとまり
八月六日にて不安ゑ稚をれを日ゆてまこ
はまてんた近ときこゆ海といを稚をやゑ
蓮の蓮まの番といはまりひかりとを事を
五月とを月はまハまの事とまとをもを紙ゆて
まをとまの事といをんを義みくハ俊頼
乃義をたりまを
綺語抄　仲實卿云ひかりを月ハ宿近のる湯

乃道の法乃日といふなり又月は日也とこゝは山義
を道の義とこゝやのえ多り俊頼ゝ義ゝは
ちゝへゝ義をゝかゝもあゝてつゝひ乃日とこゝと
ゝゝ法ゝゝゝ

ゆくへたづねてこゝにつきぬと云ふ記あやまり
てこゝにや業平ありてかゝるや紙ぶこゝろ
伊勢物語乃朱雀院のゐてこめあり
みこゝにも古近る湯乃むかひたてりきこ
女乃ゐ下すゑ乃ゐ深かのふかんこゝよれし
ときてかきりくしひかれの日とい云湯
あるや
私云ひさ久ゝせしもあやしくきこえぬを
いかなる日をかこそいとあやしこれひ年
ゆくこゝろんにぬ見もあてゆくへまて

ゆくへ日かこゝの後国こゝ海よりへ引
あけあるゝ海こゝ東へ人ゝ部を引いまこゝゆくこゝ
み河流こゝ東へ人ゝ部を引いまこゝゆくこゝ
事ゝこゝにこゝ事ゝ秦兼成ゝ部をそれよ
あ移こゝ入ゝ乃府生こゝきこゝむこゝ
こゝ成ひかこゝ成こゝ成ゝ成こゝ
かこゝと引こゝん平こゝ成こゝ成こゝ
乃日こゝ入ゝこゝよあこゝ成こゝ
毒こゝ貢移かこゝ古近る湯あくあこゝ
又業平こゝ業の本ゐひこゝれ日こゝ

とこそも世人やさ様ともあや古今めも
伊勢物語あもひ初りし日ぬ書ぬ本も河
きとけうへあり紙本うもよられ玉様され
えひうを事と物うふ所紀よあり次　又業平
あうひうすれ古今めまんもうもかり次
故左京也も源貞武おいうの邪義と河
んかうこ五山毎りうさ伝わさられ蔦もつひ
きうも番乃うりめをいうまうをやけりう
まや打ほつり物ーた方八武忠めも蔦久人ふも
ううーい得うくとりありーもけ下伝りるん

又高積ふてあれ源另八その道乃をのるれ
とひ打りれ日とて事をとハうまくけうせ
ぬことをいうんうの源貞蔦俊よあひうと
ひ伝ーうハきうも蔦乃月をやと下伝りしハ
あうて伝うひふも同様よ伝うハうあうと同乃
しうハうを様ふ様ありうとうを宗中伝りしと源よ
源另秦蔦風ようう伝うハ六郎府生ん
や伝ま久所をあうて伝うひも同様ふ様ん
それをやうあうふかうあまをれんさ伝まれ
をまううをやとうを伝いうさ海ふもきうも番

と二人のうち行もしをあり中ありつ
所にて行とびてい所ときくしとりう
とハ行ゆ所ゆ所ゆ所ゆ所ゆ
又兼盛ゆ作らしハ目うり乃目とゆ事とひお
ゆとゆ所にあり所ゆ所ゆ所ハ毎なと
のゆ所んゆハ所ゆ所行んゆ所ゆ所ゆ所ゆ所
又清輝朝臣云なりひうハ方道ゆ拾ゆ中拾
なり方ゆとうハゆ拾乃ゆ拾ゆ事ゆ
私曰ゆ所ゆ所ゆ所ゆ拾ゆ所ゆ所ゆ
大和物語乃詞ゆハ兵見物ゆいくありとゆ

あり方ゆとうゆ拾ゆ拾ゆ拾ゆ拾ゆ拾ゆ
かれゆかんゆ所ゆ所ゆ所ゆ所ゆ
付くハとゆくゆ

行ゆ乃ゆこ草

萱草ゆ草ゆ草ゆ草ゆ草ゆ草ゆ
鬼乃志許草ゆ草ゆ草ゆ草ゆ
顕昭曰ゆ拾ゆ方葉ゆ所ゆ所ゆ所ゆ
ハ毎ゆ乃草ゆ所ゆ所ゆ所ゆ萱草とは
忘憂草とゆくうゆ人とゆうゆ草ゆ
ゆうゆとハゆ拾ゆ拾ゆ人とゆ拾ん

[illegible]

しと雖須也日本紀第一曰

不須也因同汚穢（イナ ミコメキキタナキ）之姦（トコロ）

公望注曰頗頃因同杵（ハスヒコヒメキ）国鈴之

いつのかたちもまことの清らかなるあとなり

醜女とこそいふなれ

[illegible]

んなり

又万葉第二云

海ちくやくこそ恋せんとあもをくみかも

鬼乃益（ますらを）ト雄なけこひしらに家和

今来来し哉乃心をかなしみ女あとこそ恋ゐせめま

ちをとの男わらはなみうはこそ恋ゐせんとあもを

けとも行くえ恋ゐをおのもちをを

恋ゐまりときこひ清らかにかうくん

ゆゑ行くもの行かのもこゑ行かのまをすらを

行かのもときこゑる須あり行かこゑ

ことあるよ海とひくあるやうにんとうく
万葉云
あをくもやまとにうりをかまう意乃
らへのひとうをもうさ海なくう
おとうかうかりとうハあ寄れとふ
と云同歌　参考抄　俊頼髄脳　云おもの勝
草といふ者人乃ねやゑ二人をうりうりねや
う物よりうりはこひうの物むを年とふれうも
ふうを事物者育うせうう人とい墓ふおうん
を物人意ふあいにを弟うらうけ

うのうりうをにゆさひうくあをあう
て我為ふあうう人ををうけうをもつきた
ゑねやあたむうひくいんやうのひうく
ゆうをうあふ乃おのうやく年月つうて
ねをやをみうう人をうとかをうんうに人へ
くを記事うもあうくうのうりうやたくふく
ひふあくうむへうをやうもふ草とふ
をうう人乃をひとをすうふあれうくを
草とうのうのかうようへうをはおくハ
うのふうくをうへやまつうとうて

ひとれをさうりかちよりなくとうをとのこうり
をまりこのはしこ乃男いとうこ思くばんとこひ
ゝ申こそかうもく日とうこ秋とあゝつき
ゝ秋をゝまゝゝ乃ゝとく蕊宛とうゝこそ
んよ秋やゆうまゝハゝまゝさ秋こて法宛とし
うのかうこうまうこく日これんゝみくこうこ
なくこ毎日と秋こくまうりあうこ京うとこて
墓乃うちふこゝおゝうこ家ハこのはやゝ乃ゝる
と海こう鬼や秋うつくハおこ海ゝ井こうれ
ゝ法秋まりんとゝひゝ秋ことこれゝうこ雲

秋うこまれこ君こ親こうゝ秋うゝ井年月送れ
こもうゝ秋事ゝ秋おゝゝ秋ゝゝ秋ゝゝ思うゝ
しんくみこんゝ秋こうゝひゝ高こ墓こうくこ秋
こうことこうこうここハゝ法蕊とうくゝ文こうう
しとこうこうゝ心こ念法ゝうくゝあゝまゝふここ法
ゝかこうゝ法まれゝおゝ乃こうこゝ秋こう物こ
わゝまゝむんゝあうゝ文目のうこ秋事ここうこう法う
みこんここ法ゝうこ秋ここうこくこうこんゝ
いひくゝやこゝ法このこうこ日秋こうゝあうこゝ井
こゝ義ゝこう法井日こうこて秋ここうこまゝ長

ちまたハ巷荒とう行ていき事あるん人ハ荒う
うくつ称ゆこ所へしあきく事あるん人ハ
ゆるくしける事くされん万葉ゆもこう事りてハ
ゆさうりの事とハくやわり書云ひ髄過よ
見乃しと事といつてと行くゆる行ゆ行ま事そも
うの事といつてこうもなくこゆ行ち海これたこう
乃山ゆ入くてとむゆりこくつうこし
ひ事ハ澪源阿署利ゆ行ゆのこう事といゆた
草とこうこゆこうとひ行これてこう事こうこり
行く称こうこうこうこうこうこうこう

万葉よおゆのこうこう事こうゆれこれ
と俳書こうこうこうゆ行をひ人こうこうこうゆや行
らんこうこうこゆ所の梨のゆひこうこれゆ行ゆくい
ひもこうこ行こうゆハこうこゆ事とゆふなく事よ
海ゆせこくりき行こうこゆやこうこく
今梨云ゆに乃こう事こうこれゆこうハこゆこうこう
ひこうこゆこうこうこうこうこうこ行こうこ荒と鬼乃
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
きくこゆひ草ゆ行こうゆハこうこゆこうこれ事
行こうこゆひこゆゆ行こうこうこうハこゆ乃ゆのこ

乃ちの鬼乃ちこゝにあるものとハねこの
おのこかんかうこもしかるべき乃二かんにこゝ
つゝこゝ乃ちよんハゝ行こゝにすまこゝ
ゝこゝ我ちんあり物ちの鬼のこゝにあるもの
物ちこゝちとハこゝんまゝ
ゝこゝ物こゝ物こゝ乃ちこゝ草こゝつと
こゝハこゝ乃ちこゝあきさゝよかぬへ
万葉集にの云
ゝこゝにゝこゝ物こゝんこゝあれと
おゝのこゝこゝ草こゝ物こゝ

ひこのゆこゝハこゝちこゝ物こゝ人こゝ
ゝこゝ物こゝとうへこゝ物こゝこゝにゝこゝ
ゝ物ゝゝこゝ川角けこゝ物こゝ
ぬやゝハゝ物こゝこゝこゝこゝ
なゝ
詩語抄云ゝこゝにゝこゝ草こゝ鬼ちこゝ
ゝこゝハ蘭とゝ　私こゝのゝこゝ物ゝ
やこゝ物ゝゝこゝ文こゝ物こゝ物こゝ
こゝ物こゝ後頼こゝ物こゝ
奥義抄云ゝこゝにゝこゝハ草こゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わらむしてさうしく傳へさや緣をよ弱とうみ
うゝわ待てゝ武万葉乃あゝわくむさつさと可
傳や　長歌万とよ杉きゝへの分とめよゝをして
へ川くさよ味村乃和伝うく
みゝあさつのよ　ゆ川ゝ乃ゝ乃ゝ　ゆ山ゝうし
かゝ川ゝ乃ゝ緣ゝくゝ久ゝゝ乃ゝあゝ乃ゝむゝうゝさゝハ
ゝゝゝ

ちく山乃そ[illegible]ハ我ハ
さむしとそ人もるハ山ち移ゆ[illegible]
後もちんぬ　　綺語抄云あらむしとそ海とハ
あらむしとそ海乃名ク　奥義抄云
山乃そ[illegible]あらむしの弱しあらるれと
ま移さきむしとそ海[illegible]あ移し
あ[illegible]ハ[illegible]あらむしとそ海乃やうよ移ぬくむき
さる島をさそ海と伝まとハ[illegible]さくハ[illegible]山
のくとハ後へさそ海ハ白弱のけと云しして
[illegible]めれ貝の乳た山のくよ海まとつりと移くハ

さむしとよあらむしとて　遠考万葉長歌云
くこ代ち探うこつさく移てひと物く国よ
ハ見ちくあらむしたれさつ紀ちと我とまろ
うつ毎まつ[illegible]あ移たうく
如武京ハ日乃京ち[illegible]根わ遠たち牧味村と云
ちう　今云綺語抄乃不名ハうときさうえ
又京れ四ハ[illegible]ハ　又奥義抄さむし
[illegible]ハ移[illegible]ハ遠万葉欄
又考万葉云
まらとと友乃後[illegible]なくさむし

ちはやぶるかみよもきかぬたつたがわ
からくれなゐに水くくるとは

ひちりさの歌

いもとわがこれるこれにひちりさの
歌もゆゑもなんあるとまを物ん

顕昭云ひちりさの歌とつてるへひちりさ
ちまきハ万葉集乃歌なりけ集ものをひさ
くさの歌とそうち　考万葉第十三

いもとふれゆゑもなきひちりさの
歌もふるゆゑもなんとまを

源氏物語云ひちりさ風いとなつかしく吹いてくる
こゑ聞あ所ちへまもとくゑ所ちあちりさ
歌ひちりさの歌とあちりくいとあちりく
出られたみかの歌ちりさなんとをかりあさ
もちりまあつかとちりく
云拾日

いもとかとめちりさ川ひちりさ乃
ゆめも物ちなんあるかつ物ちん
ひさかハ万葉乃とやつりをもうあや第三
白れひさちりさと手をちりくひち

くさ毎とゝ[illegible]不可有也

俤馬樂姉門云曰

いもうとせをうめやゆきをぬく梅とゝや

まちゆゝハひちりぬれ毎も梅なんまちこの

毎ぬさあるよやとゝかゝるゝ毎とゝりく海

うんこゝてのゝぬさ

ぬ寄も万葉乃寄とりん毎ひゝく作ゝまり

ゝりんゝゝゝ古拾乃ゝれ宮ゝゝ俤馬系譜

ゝ三條左大臣雅信公乃作ゝ稱毎れゝ万葉

乃梅の事形ゝ三拾集に毎ひゝゝりんゝ

不可用也

綺語抄云 ひちりゝ毎と八俗ゝり梅ゝ毎とゝふ

云名抄云 ひちりゝ毎と八俗ゝゝゝ毎をゝゝ

ゝや俗めくゝかゝゝゝゝゝ神とゝ

くゝゝ稱をひちりをかゝゝゝゝ 童蒙抄云

ひちりゝ毎とゝ俗ゝ毎ゝく神とゝくゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ乃草くゝ

ぬゝゝ在ゝゝゝの名具者みゝゝゝ

まれゝゝゝんきゝゝゝゝゝゝ

顯昭云ふるの万葉第十相聞部やそしまのく
さらばといふ歌乃第ふるゝ考万葉ふ
わゝひこの山をこしにをれるゝこゝ
このゝ毎ちらさるる日をなゝ
み同集第八云
わゝれまこのゝたちくれゝきゝ
くゝゆゝくゝのちこひまゝゝ
み長哥云第十九
ゝゝくゝまなゝゝきゝゝとゝふれゝ
ちゝゝゝゆゝゝれゝゝゝくく

み同集云
ゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれ
ゝゝとゝゝくくゝん云いとりゝ云
今案よこのまゝ毎ちくゝとゝ云詞は奥をとゝを
も草奥者と同文字やり稍々叶るこの同とゝ
ちくゝゝとゝひゝゝゝすのゝゝとくゝゝと侍ゝ
とゝゝゝゝゝ毎ちゝこのゝゝゝとゝゝゝこのる
ゝゝちくゝゝゝゝちくゝゝとゝゝゝ同詞とゝて
毎ちゝゝ毎ちくゝゝゝゝちくゝゝとゝり
み山吹乃ちゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

義[illegible]故源中納言師仲語曰
下向坂東之時[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
奥義抄灌頂巻曰昔男時[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をり郭公よまのあけぬ秋さらはなくなくとなる
をちこちやうくうつるきくの花ハいつもかはら
ぬさかりなる八月の末の事ハ人こゝろ
も秋をまつあうとをやうとんと御うハ品えん
をかいうんと詠ぶ古今乃秋なかあ
ゝ歌枕ハ所名ハ所ハ所の五
の末くれなんと傳うハ春ハ所の五
もうくの時人事ハ人ハ
歌を第ちとうとうて色うハ　入童蒙抄う
付くこゝの草ちうとうくこゝ事とうく

いなかの野ハ
耳原　河内や山城とつるあり
入登蓮法師ハ義ト作りかと人をうひを作
入万葉物のをやのをやの草ちこ
ちうくもをんとの作ちきをんの
をやをへをれ作くハあををを作ちも第
ちうをうをうハ品をうれを
をうをうをうををを

ひやうたん

あさかすみ屏風に書る歌

ちるさくらはなにしんやうの

題那云ひやうたんとは和名ひさごの

屏風乃うちはりもるれを造るその屏風

あれをあまたうれはべるこそとかとひ

やといつるのたぐひなるよんをとりられい

水なまりをこしらへ一生をうり

但馬へ下るある人知人へ下人道みちられを

はよんをうりとやうなる別屏風をこしらへ

和歌はかなをこしらへ別屏風と造をと

中をいろいろ屏風をこしらへうりはし

さうしきゆ物語をとりひやうたんと

中のこゝろ

歌隠の類聚古集よりはひさごの歌よへ數史

篇ひさごよりよ文載一首哥

あさかすみ香ひ史屏風にこしらへ

ちのひはりとつきんをもとも

ひはの郡は數史多屏乃下とも歌ゆ

はりの數史ちる屏風にて別よあらはして

[illegible]

又本集のハしきと秋部より入あり所々ハ物
語と繪ともうつし〳〵敷者共乃ちかうかう
奥義抄灌頂巻云ひやとハの中より奥とる
とゝ〳〵ぬ年や海のそこにたゝとゝまりて
とゝ〳〵海つゝ〳〵ほとゝぎすのうちまさの
枝とゝ物ゝ〳〵ら根ゝ〳〵物ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ付ゝ〳〵奥乃ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵奥の中ゝ物ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

[illegible]

ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

もろ事ゝうひやうとみかとりかもと称ゝ
しゑ云りまとうハ田よみ歌りを詠人を如何
称河流百首ゝ公賞で寄云
まろうとうふ〜ゝ法ゝ爲ふ〜つを〜
うひやうもんゝ爲ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
し寄乃んゝ爲ゝ法をよかつゝ称とゝ乃
祝ハ百人り叡蓮法師ゝひゝ爲ゝ乃ゝ氏風
む記よゝうゝひうゝとハ称とゝ爲ゝゝ
とゝうひやとうふとんゝ爲ゝとゝ称〜ゝ
枝風土記又　おハ百つ形〜ゝ方ハ人れ

ゝ〜事氏　又叡蓮法師ゝうひやゝゝ
水乃下れゝ称ゝとつへゝうひやうゝゝゝ
なゝ称ゝとゝ人へゝ称ゝ称ゝ称ゝ称ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝ歌　章家物ゝうひやハ古来ゝんゝゝ
きゝ称ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ称ゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝ事ゝゝゝ民門乃下ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるこの所ゝまく奇乃るひとり

あり物をあるこやうなるとゝつゝこと

以義やをとこのやうもんもんもんもん事海ことも

おりし沒きて乃見たとゝ儀い　和語物

よ物ゝめ和ゝれとゝ移もんゆうすこゝひの

見物ゝてゝひやゝと野れて万葉れ奇ゝいるひ

あるを

おゝ月ゝて寝ゝ月ゝ

風物をいおゝ月ゝ寝ゝあゝ山

乗まゝやまゝひゝゝあゝん

顯昭云あまをいは古今奇ゝ　注云或人ひ云ふいは昔

大和國かゝる人ゝ　ゝんむとあまをみまゝゝゝ

ひ女おりやもあゝ物ゝく家もゝ侍くかりゝ

よこ乃ゝこ河國ゝ人をあひゝゝくかよ

ひゝゝかまゝやゝひ乃ゝかりゝ和ゝ見侍ゝ

をなゝ氣ゝもゝ月て涙河内へゝをゝゝよゝと

この心れゝくゝよゝ河ゝゝゝゝ侍ゝれゝあ

やゝとゝひゝくゝゝ侍るにゝゝもやゝゝゝ

ゝゝひゝ月乃かゝゝ侍ゝゝ河和河

内へゝくゝ海ゝくせんゝひ中よかゝ移ゝ見

行ちまれて東ふつるまくしめて紙ちるまし
はくひはのとうちくく称よきれたる稱をゆみく
いとはるれとうちくく称まわるかやうも海う
和歌所うちわやまと言葉あり　今東北
おくにうつる浪とハぬるこ山やいちんとくこ言葉
なう白浪とハぬるを人とハとおそ稱くく
あれこ山とひとうちくんと稱ちうよ
稱川ゆんふこよ載のあり人をんれそのう
とハあくもまし
万葉第一　遣長田王於伊勢斎宮時山部赤人

ぬと人めあひ給ひけるを諏りのをとゝ
白波うち緑林なりつゝ云ふ称乃半こ称ら投
女ゆゑ沢ふもとゝ称と云ひくゝ海ちもえん
云若物云 白波とゝ云ハ盗人とゝ也ひくゝたの
つゝ山をおゝ称こゝひとりこゆんとれ
かつゝるゝにゝめう奇也 待浩物ゝゝつゝ
とぬゝ人とゝ半と称ゝり 奥義物云盗
人とゝ波とゝ書也こ乃ゝゝ半かゝ
ゝ盗人と白波とゝ也文ひゝ
ゝ半かゝ称とゝんまいゝ

くゝ乃ゝゝて

久ゝ称ゝくゝゝれゝて物ゝ称ゝ称ゝ
あまゝ川ゝるゝ称人ゝゝ毛ゝ
顕昭云くゝ乃ゝくゝと云ゝ乃ゝ称さんゝ
ゝくゝる物ゝゝ称ゝ称ゝて云ゝ称つ乃半にゝ
ゝゝ毛ゝ半やつ称ゝハ久ゝの雲乃称乃に
ゝくゝ雲のゝくゝとハゝくゝのゝくゝよゝ
と万葉集乃ゝくゝ奇と人ゝに國乃ゝくゝよ
ゝゝよゝくゝ称乃ゝ物ゝ渡ゝゝれん國ゝ云ゝくゝ
とゝくゝくゝ称けゝ毛の廣とハ雲乃ゝくゝ

[illegible]

万葉第八巻長歌寄云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

されて万葉等にも

まくらのそようちそよ入日さす

ちるはぎの月やすきあくこて

と詠り　ゆふ雲にはれてくのうこうのそよて

こ雲乃さそ物こ八さゝりもやうよ

なん和月ゆゑと傳こと雲乃見てのあるまれ

る秋をう八乃月形うへとこるにおるこ

をと又蛛とゝふ雲乃て八川ゆ秋をこの蛛

乃を八形よゝゆ和乃ゆとゝたるやうう

こ世をを八こ秋よゝつくゝあるやゝれもこと

乃か乃ひゝるゆ雲あて八こゝゝや重こゝ　しみ　こゝう

ゝをの枝さまゝに川ゆゝあるに風乃吹々秋をし

生ゆゝるゆゝくくのをゝこゝ雲れをこてゝあゝ

ひゝうゆ乃雲けをくれさゝくゝ郎

風こゝ蛛乃いのゝなを楽これ

ゝ秋とこゝ礼を雲のゆ雲ゝゝをゝといゝん

とゝ郎　奥義抄云くゝゆて雲れをゝて

とゝふなゝ絡布織やゝゝれをゝゝくゝ云

郎ゝゝゝとゝふゆつゆくゝ雲法雲よくゝゝくく

ゆゝ川雲なゝ乃人ゝゝゝ乃ゝをゝゝあゝ雲乃

[illegible]

今案云[illegible]

と別乃まく

古語拾遺事也

古語曰[illegible]雲と[illegible]海乃中[illegible]れ古語也

瑞應圖曰 豊旗雲者瑞雲也 帝德

至時出現雲也 雲物者 似旗也云云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源順の俳名序にも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あけのそほの稲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

顕昭云あきのうゑの稲とはあけはあけとも

[illegible]

或は狭冊塗之小船とも源氏 あけぼの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いやひろ乃とのゝ稚神とひの紙くゝ乃
ゝ毎ひ〳〵日もそ〳〵河〳〵まこうかゝ毎毎
伊勢物語の詞ゝ〳〵ゝ毎ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
書ゝ乃ゝ日本紀ゝ乃ゝ稚とゝ〳〵曽保命と
儒ゝ乃ゝ文ゝ乃ゝ乃ゝ毎義とゝ乃ゝ〳〵ゝ乃とてゝ乃ゝ
乃ゝ別まゝ乃ゝ〳〵ゝ乃の詞ゝ毎ゝ乃ゝ乃ゝ毎ゝ乃ゝ毎
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃

神中拾葉二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題目云古今集第十三恋部云々
裏書抜よひ方云書出あらゝ不審之人ゝ
さ方の事ハ他書にも数々かゝるもの也人ゝ
さ方とかゝるわ歌今集云世とうゝ人ゝ鈴ま
も作ゝ家しゝ山ゝ歌も入れ歌ものゝ題を
ハなれ乃ゝ歌と書ゝ人といふ歌ゝ作ゝふ
歌ゝ世とさわぬまゝハ名も世とのゝ歌ゝ

深櫛とゝ嶋ゝ紙に書つゝ海ゝ名とゝ
たゝ野ゝ紙に深名ゝ海名ゝとゝ
名とゝ海名とゝ書つゝ名とゝ
まゝ野ゝ紙に海名ゝ書つゝ名とゝ
いゝなんゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
てゝ世とゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
よゝそゝ人ゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
ゝゝ云へゝゝゝゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
ゝゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
日本紀に海深と書へゝと書ゝ

書ゝゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
世とゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
ゝゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
ゝゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
万葉云
あふみの海へゝ人ゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
ゝゝ海名ゝ書つゝ名とゝ
後撰云
なにはをんな海名ゝ書つゝ名とゝ
ゝゝ海名ゝ書つゝ名とゝ

三善道統申文云荷嘗非業何道名於東海之東蘿住應深誰晦跡於北山之北云々

百代をさかりもすまといのりつゝ
あらはしてうつしかへるよ

顯昭云此歌義抑書出歟不歟之
まこと紀書のをふ歟之さ抑とうつるの歟
をへしあらはしてうつしかへるゆゑ云言ハとんうれ
かつゝ那うあるよこそむすうえと云而乃名
もあ抑をたうはしてうつしかへるとこそ云而乃名

ふるやこゝ義をあらへうつしかへるをたうはし
うつしかへるうまうまるうつしかへるとうあるまれ
まこそし詞をたうはしてうつしかへるゆゑ
僧頼釣長はうあへうあり
をしへあうすうの海へとうをへく
いうまうんうはしてうつしかへるう
と御うもうはしてうつしかへるゆうえ
をうとうこゝゆゑ回なうはしてうつしかへるとこゝ
日本紀云ゆゑこれうえ　古記　古ハ稼嘗ゆゑ
うくたうはしてうつしかへるもゆいをれあり

七夕詠

我をもあとゝあれたる詠めれのやとに
とゝあるゝぬ乃をれわるくんくも
顕昭云ゝ川の龍龍よゝれたるつゝとゝふ
事不歟そ〜ゝひこゝ乃詠ゝなゝ稽ゝれ
たゝ詠ゝとゝ歟まとめと八回めゝ重たゝる部
や但古詣拾遺云拾遺大棚機彦織彦織
不稽和衣也今歟ゝ詠ゝ彦織ゝ詠ゝ
ゝ加歟
或古詣拾遺ゝ八彦字ゝ詠めとゝあり

抑金葉作者藤原忠隆者号能登入道
資基彦卿ゝ也獨やひこ星詠ゝ詠ゝ稽ゝ
付異名いゝくゝあゝ事も可愛ゝ詠ゝれたる詠
ゝとゝへゝひこゝ詠ゝ詠ゝ詠ゝ詠ゝ
詠ゝや
ゝゝゝ詠ゝ詠ゝ
ゝゝゝあゝまゝ詠ゝこゝ乃詠ゝまゝ秋
ゝゝくゝゝゝゝんゝのゝれゝ
顕昭云ゝ鳥ゝなゝくゝゝ乃ゝ八方葉ゝ詠ゝ詠ゝ
ゝ詠ゝ可歟ゝ詠ゝ

よりて歌をあげまとる事は海東とゝ云へ

日本紀第七云　日本武尊相模國より　上總國
往海さんとゝ海中ゆく暴風忽起て王
船漂蕩ゝく渡へゝす王よゝ妾ゝ海の乃女海
乃神梅姫ゝゝ云種種氏恵乃宮稱ん女ゝ
王よ語ゝく云風起波ゝく王船沒ゝ
元必海神乃ゝんゝ稱ゝくハゆゝきせう
乃身ゝゝゝく王乃命をあひく海ゝゝん
とゝいひとりゝ波浪をゝく入風外

やむく身をよゝゝをえゝわれよ時乃人其海を
号ゝく弟水ゝゝ上總ゝゝ海乃ゝよゝ恵ゝへ蛭
夫既年ゝ日ゝる月ゝの恵ゝ西南の方ひ
ゝゝを恵ゝく甲斐ゝよゝく酒匂の宮に居ゝ
ゝゝ甲斐ゝよゝゝゝゝゝゝを恵ゝ西
乃方ゝゝゝゝゝゝ時ゝ日本武尊毎
ゝ梅姫ゝゝ乃ゝ乃ゝ東西乃方ゝゝゝゝ
ゝゝ吾嬬者耶故山乃東乃諸國ゝ居
て吾嬬國ゝゝゝ東ゝゝ事ゝゝゝ

[illegible]

玄中記云東南之地新山上有大樹名曰桃都
枝相去三千里上有大鶏日初照此樹
鶏即鳴天下鶏皆随之鳴

今案云東方天鶏初鳴天下乃明云
とつへて東国とうたへり
日本紀云日神岩戸を閉給ふ時思兼神
歌を世々長鳴鳥使長鳴
びんを鶏なれば日神出給ふ
[illegible]

[illegible]八日出来たれいたる海ふを東よりうく
事あれたくを乃ちあのもをとを鳴るれあ
つまとをたくをたをあまをたらあまをや
いそのまも

いそのまもあさ山川をあ須あらん
まをあひうんあうをまけく
顕昭云ひそのまもはまをたる歌をる事
今案ゆとの歌と云文字を書つと百葉乃前
みかもりと云泡よわれ乃百葉よハ河のも
いそのうをとをあたいそ乃間をうを

[illegible]

万葉哥云

[illegible]

いちしるくいつくもあらぬ人のこころを人々

又長哥云

白雲の[illegible]

又云[illegible]

[illegible]

[illegible]

又云[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又云[illegible]

[illegible]

[illegible]

私云ゆかさ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題目云万葉集乃内より出詠歌をそ八十と
云へとも人くに命りあるハ何も〻とゝんの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

早歌(はやうた)あそんこゆるたちうり
こ乃川ぶせあそのをとめ
久をとこきて濃り
見まを殿ハむろとのへよるふかひ
てらくあるくぶいたちきたらはと
むりてそをはあるはるはるはるはる
行くとはをふハをきのさはやと
をきかをみこのをとのあるうをひ
乃つかをらの乃をちハあれをらる
武はをを風しをる濃り

をををやしはをををたるくよ
まりむきをやし雨りをはあれ
をまやしまをれをを紙雲井をや
をひはををむ月をあれくはは
長袖をまやしいををれまを
或ハをきをしをを濃り
をきをしかを乃をかふをひを
いもらんをへをすへをを
をきをしをりをを紙をひまを
ひふりすあハあはをひをを

山川をさへとやをしへしきつ
いもとあひ思ふやうけまん
長歌云
ちきうまらはふうひくるけさて
いまは
ふたり　さねをはらはりまちさうそやん
はすのとはさうひまくるまもうら
今宵ふうえやもいんとをめくうそをと云
詞やはちきうはとうとかひう詞
なわきやけとハ同五音也さ行えはきやー

ちうまやー同詞也やとうは同文音なる行て
ちうさうー云同詞也　紫式部云ちうまやー
とハ女をと云　女房　綺語抄　奥義抄皆同
女をとうわ傍輩論云
ちうまやー宮仕ふうそはうへいるまれて
除法のゝ国をこゝもちうしてゝ
詞云女をの娑婆世界ものも思ふく物をなくあ
ちうにあるとれ時ともうあられてと云りもいは女をの
義に対り称法相的義に奥義物ゝ男をいうこえ
女をちけやーと云くはしと万葉集の中云あわくきと

えぬるをとれる海しく好書家しく男をは
せるかをといふもの行くもことをうしく行るあるれた
えるの本あハえるふ乃様なる物をいくとみる行る
義経紙をうて安をとハえるをやしとうるあるを
傳頼乃をのあうあもその宝より書くく行る
後鏡物より男をとハをうえやしとうひをへを行る仮
文りよりをくく作ふふう奥義りハ男をううえやし
と涯をうふるをを文をのふ付くく古歌をを
不二引前歌
万葉集云ふうきうとハえるのををへ人愛

愛をうを也　今あ東より　朝奈と書くをうをを
ふうと傳るあれを云ふるを義より付くくくるり
もあ様を朝奈都より付るをを様をハ
しきうと傳るあ
ろうの為な様なを紙やまを
あふるを乃　ま様るるより　行りひうを
我為ハ行ひに　あまうをれ　をあ時ふく
姫ん孫乃　をへ行くとより　おをへおをも
あるるを　なみかを　人をうえん
をうりをの　行をひを　行をひうを

なわのへる重
かく敷てん
きぬけぬへく
なる紙やまぶ
山さと水ぶん
あれてかも
人をりぬし
ひとわのく
せんをへるよ
ちぶるぬへん

いてうう
ぬゆる時なく
ゆるゆるこの
ちぶの多れへ
あしひさの
ちとりの心を
多りいくは
久よなれて
うけさゆまち
あらやすへ

おもふ人神よ
おもへ人やも
ちとめる人よ
題昭云しろ雲月なる紙屋ちとを半八
奥義物しる書いてかう不歌詠おりつる
一閑居乃月なる神てさしらみちあんと云て
ちぶぬと上ぶん句は雪にはてへく牧やまぶと
傳ちを有為乃月ぶ八ちぶんと云ぬを
死ぶ往ぶ死ちたぶとうぬもう行ちを命ぶ
きは志ぶ作ちをぬさ敷ち　敷長卿云

をくちを乃
敷けぶれぬ
あんと云へん

けぶ分ぬへく
ちるふひを

院御本にはてふ蝶なれとあり蝶にあり
て虫にあり毋にと義也こゝ所にやくてうか
かたちにとゝろかさしにしてうくゝろれ為
為ゆくゝ意とやまんもと悲愧もこゝ所や 今案云
況や又也乃本毋もゝ乃為とのこゝろ書
て侍めれいく莊周久夢に胡蝶とあるもゝ
侍きとゝ紙てふ為為れて仁やはしくゝ
むしもいくくとて物ゆくゝ侍る或人云要乃
為るれたゝゝゝゝとゝ此に假名乃詞也
やうに傳うゝ人也為ゝうゝ大要乃趣やはゝて

侍きはゝさしうゝふゝゝふぬうゝとゝゝゝ義ゝうゝ次
ゝゝ要とゝ書とはいゝゝゝゝゝゝゝゝ間
海乃為はゝもうゝゝゝゝゝゝゝゝ梁
えゝやはいゝゝされゝゝゝ草
ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝと
顯昭云えゝやはいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てえゝやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わらさるやうつさせ乃山ゑんぢとうる
と乃のおくそひて勇紙ちらしかく
ゆくりなくもそちらるる
さしもおもひぬしとやはあらぬ
下野やたのみんたちのうすまるる
と乃のおくそひて勇とやなくらん
今宴よ後拾遺　宮内卿　乃八六帖乃いふるの山
乃さし海苔とうるよ貧くゆゑ投ゑるとの
ちらひて勇とおくしかとあ待てしに所よいも
ゆくりなくなるへしみちをやたのみ乃

たちのさしもの草とうるさしも草かくれく
孫ゑれいふるれ山ゑんぢとうるもト
野もきゑんゑり
枝ちめめためちられさ愛もしるる
源世乃中にあらんとうるとて
ひ乃八法水観音乃示現しおるる御ゑのとて
ゑ世ちりなちりゑ乃うとトゑ乃ひ
てもゑんと孫と佛ゑんなれと根こそを
仏ちめゑ下野やたのみ乃示れうトゑ云
寄れ下旬よたのおるひよ勇とやなくらんと

和稱と為やうくらふ唯一家とうの
とあれとうくあるに為ちの系あるのちち
志ちの系八同半やちと同めるや
みうまと為ちまとうとも為と又同
事や志と也と同めるやちと同めるや
奥義抄云つさの名をいはに央乃をのまは
ちくしもや　長考只草ハまつもゆり抜れ
しそへ僧るるやは山ちに央をゆるる不
審し或人云仲山より央蛾半をやうく
和稱抄云

なり紙さうよりつされ山ちに央ちまと
さうをうを抄をしあるとやハあるる
云抄よりつさ乃山ハ下絶國よりしし山ち
ちし為ハ抄ちく生乃ちを為とハ差蒿
私云為とハ　童芸抄云
なり紙名のの為ちあれ系のうを為ハ同
為れ為とハそちを乃名ちる系ちくる
時と云なるへし　又或云為ちの乃系為ち
ちをハ下絶國よりあの乃為とを為ちを系よさ
しを為抄ちくれへりされあれとを為ん

ちとゝ云り同事也　又云所也草とハうゝ
きとゝうみよりかれ出ゝうゝ草也又云ゝあり
とハ夏ハ一名也
絵図寄花云所也草とハ屋の軒よりかゝる草
なわみゝうゝこのうへ草也と云　又秋乃野に生
神乃花草所とハうゝ海草也と云
後撰拾遺云所也草とハ菅也　今案所も草
とゝうゝとゝうゝ花ハ慢　而見和名ハ黄連
とゝ海草と續古也　綺語抄ハうゝさ
とゝも草とゝうゝ絵図寄花よりあ乃海り

海草紙ゝゝ也草とハうゝ
とゝ和
ちゝすゝき
波ちゝきゝ花ゝ
ゝゝ稲ゝとハ
顕昭云ちゝきとハ花ゝ花草とあと
同ひゝさゝ海ゝ稲ゝ
花をゝ〇ゝとゝ
同也草也ひちゝすゝき
くゝ也長歌云

源雪ふる河海乃月明ふ雄をとこ
あのとこふこと乃ことを
武万葉書云とこもとこきてハ穂乃出く雄
とはくをとめ乃稚なるすきをとこて能国や
くるこころ
日本紀云播萩稚出雲田部之
沸部　今案ふ付く雄字ハ　能国歌云
日本紀ハ播と書播を佛前乃ちこる稚
い儀式戦の陣ふ乃ちこる稚を万葉　日本紀
ハ播かよりくく書ち

ふ万葉ハ棚機棚播と書ち又織姫と云
ち三字ハ同訓書れかちくく書ち
ふ萩ちちくく諸ち同類なる部
ちをきくきちめ乃ちこちいまちまち
ちはいんちやいん稚とわぬちを
ひは乃ちふ付くくちちすちこうハ前ち乃前と
三乃ちよち部ちを
ちはこにあ
かちをちいちぬ忘ちちはちを
童子部扱云ちくく前とハはち乃前とを

みるこさてこそとも
なるべき種よりこそあらねひとしるし
なれ乃ちく ひと筋ふ〻〻人なるよ
ら稀なる乃ちこそ
者因なるべき種よいつるとこるこそあるんい
ら稀なるもれもちあん
めひしろ乃ちきよいられたる落
かめこそきこうふこのころ
ら乃ちる稀なるやあちあんをう落
うう稀の山ちはくあるも

侍婚物云伊勢乃宮ふ物よ落乃ちへ
ふうれぬさくくうの〻く物よ
落乃ちる文字乎聲乃ちるあるにあら
ちへまうれぬさる腐ちるやちへ
伝よいちへと云へ古今ふ云腐すきていつし
ちるこあちらくいは同ものみりよはくまれを
稀ちいちるきうも云種ふいく稀ちの落
といちんも同事や只ちるこれていく落と
事ちる所よ付くく稀ちる云腐ちる義知来
ち種ふいちれいくあるこちるもちきてのハ

きりくとはなのうへ袖ふるしをれたるつゆ

拾遺雲上の

花の下にたちよりて袖もすくきぬ

秋乃きりわりなしやたれ

見いたしのとは袖よりいとぬんぬきとき時も

紅葉ちに袖をぬ　又云万葉小野好古と云歌

きりの野乃萩ちる雁乃義也

いとをつむめり

あをはきのいとをちりしいとれつむ

めさしあをすかれたるあん

題脳云めりとはめりとはめりとはめ

めのまちうへめうちすかれたうみあをきなかこうろ
めりとうゆへとハ歌をうたふなとうたとし
あまうハかうたりおりうこうきいうるつむいれ物
をめうとうれとうれ毒ーうとえんーうし
み考古神系朝義本云
あさうやとあゆみあやとよあしきせハ
ものなりんとうきうんあうむハかむう物
奥義物云めりとハあさいうう居うこうの
うちいあ歌やけみくうあう　或人云俳物
いまう物をめうしうこうーうこうやうこ

今云うこう乃入物とハ百業ハうこうとうう
ものうたうこうあるんうん奥記うこう
うこあうあうあうんうこうゆうこうこん
世ようこうこうとうハうこうの業ん員乃作よ
ものうこうこうとうう
うこう歌　和歌物云うこうとハうこうこう
慣よ業ん之俳人ハうんハかんこ小業やあ氏毒流
うこうとハ小業とうこうこうこうこうこう　和云
えうこうハうこうやうこうこうこうこうこ同毒毒うん
毒うこうこう

真名をもむ郎名をもて乃をもて乃ものの稲を
きゝ稲よりきゝ百きゝきせんこもゝも
類聚云海こわと八鵜とゝ也ゝ海こわともむ
うとゝやうてその名とゝゝゝ所也ゝ武人也
中臣て八絆乃牡よ鵜おゝゝともむやこゝ稲ゝ
こゝゝこゝめこゝ稲と同意也　万葉中臣乃八鵜を
八海こわとゝ所とゝゝゝ　但類聚之類聚　万
葉ゝ八鵜等と真鳥ゝと別よ筆之別ゝ
とゝゝ歟　或人云海こわ八雑とゝ云
或人云ゝんさこゝと云　或人云別ゝこゝ文ゝ八よ

ゝ乃稲ゝ付ゝゝ　まゝ乃　まゝこも　まゝこん　まゝて　まゝを
まゝき　まゝう　まゝ海　まゝて
まゝう　まゝ聖　まゝこき　まゝ稲
中臣武ゝ也ゝ乃ゝ稲なゝもあゝ　武也
別乃稲の名ゝ稲ゝゝゝゝ稲て海こわとゝ
稲ゝゝゝ　又万葉集等云
牡ゝこゝ稲ゝゝゝ海こわともむ
うゝゝゝゝ牡乃神ゝゝゝゝん
万葉ゝゝゝゝゝゝ乃牡よ海こわゝのゝゝ

事部

さてはいとまつの葉

綱児之山五百重うつせる佐流乃滝

左手蠅師子乃葉のうつり

顕昭云ひ奇ハ稀なるやの物なり

もぬさにつくる古物よ歌一つとりあひ歌

ちくらの文ちの見人こそ次撫すとくこと葉よ

わうふとこの山のあまつうちまつかう

うつもぬ西行くのさとりとまりあつる

さ次ふ行くとこの詞というんまつなるう

下句にさくハへたつ乃葉ゆ一つ西歌とこまり

さやぬ所蠅と云ふ師ひとこうこの乃也

こ武葉ふこゆとこうく意言れんよりうへこ指

野行くとこうこうこ稀なゆ詞

こ人ハこ西西詞ゆこうハけこ西能こうこ

てこうこ清り海うちをぬこをハこうぬこ

うこ海りこひくこ人ゆんくこ稀ゆうこうハ

人ゆうくこ稀ゆうこ乃ゆハへうくこゆ

葉ゆこ西と海れ

一こ義こ万葉よゆこ海こまり

あもとへ河内と書り河内とも書り
海りあるいとなれあるとよめりゆゑ海なる
河内へ　なり稚し者の乃ゆゑと徳ゐ
あもとも乃んえいもゆゑにはんゆりとなり
なり稚し武さあもとも紀と重武さめも
なるとも乃ゐまされあもとも高ゐ宣元宣
乃義宣歌
下野防人等云
海へ行ゆゑゆゑ乃ゐまとくあもとて
あとなれ波とゐ乃ゐまとやしき

あもとも乃ゐと武さあもとも武さあもとと書り
ゐくひよいとくゐ稚をゐもあもとくの
ゐ海乃とくゐはまとふゐも
武さあもとと書り　久海とも稚ん乃ゐ
久蝿と書師子と乃ゐ書はゐ作字万葉
ゐゐ書り
あゐきゐ乃師子高乃孫とゐゐて
河ふゐくくしもゐゐもゐ
ゐゐ和へとあへあるものを和山田ん
康猪田ゐ河あゐとゐもくゐ

廉田と所子田と出る人丸
馬聲蛙石華鬼樹荒廉摺う末中
一伏三起暮三伏一回東牛言 喚犬追馬撓
人百葉哥云
わらいてうら面ゆくはるふなむ丸浦
ちくはらまの夏みゆり
今東て見潟とあるよりうやはるさて
ちへちとうら面とあるよりはるうや 問云
ゆはく意乃哥ふれ百とあるよてい玉拾丸
答云 風哥乃ん人とわくはるあるふ

能く丁二斟酌
白哥乃打き所
ちくあ乃打きうめにとはとくふ角
わかるうくうくうくうくうくうくう
顯昭云ちくあ乃とはくうくうくうくう
とくくくとくくふへくとはくむるふ珍くくん
はくとくうはくむ井よてあるにとはくう哥
乃とはくうめくくくあくゆくくくわくはくよは
わくくくむくうくくくはくうくくくくう
俊頼云

秋乃野の露よりなほ哀なる花
ちる毎ひとりぬるぞ侘しき
如よう拾ふ露と落るとばかりぞ
見ハ拾遺哀也或ハ拾遺哀
めるを書ちがへ書乃ゆへよしなきよしなし
しらぬをしらぬ注載也